

母が亡くなり、自宅近くの葬儀場で家族葬を行った。8人の参列という葬儀であったが、請求金額は100万円を超えていた。事前にカタログを示されて祭壇やひつぎ、骨壺などを選んでしたが、こんなに高額になるとは思っていなかった。業者の説明が不足しているのではないか。

(60歳代 男性)

新型コロナウイルス対策や経済的理由などから、小規模な家族葬を希望することがあると思います。家族葬は、小さな会場で親しい関係者のみが参列する葬儀であり、費用面でも格安にできるというイメージを持つ人が多いと思います。しかし、冠婚葬祭に関する業界団体では、『家族葬』には定義がなく、参列者が少ないため、会場の使用料、返礼品や会食費などの実費が安く済むだけで、家族葬自体が安いということではない」という見解です。

肉親などが病院で亡くなると、遺体は病院から速やかに運び出すことが求められ、遺族は搬送・安置の手配と並行して葬儀社を探さなければなりません。悲しみを抱えた中での冷静で慎重な判断は難しく、葬儀社からの説明内容が十分に理解できないことがあります。

一方、葬儀社は消費者にどの程度葬儀の知識や経験があるか分からないままに説明をしている場合もあります。

葬儀の種類についても、「一般葬」、「家族葬」、「一日葬」、「直葬」、「社葬」と様々な種類があり、内容も複雑です。中でも、葬儀社による「家族葬」の年間取り扱い件数は増加の傾向にあるため、料金やサービスの内容などをめぐるトラブルも増えています。

このようなトラブルを防止するために、業者との打ち合わせは親族など複数人で行い、見積書の請求に応じ、内訳などを丁寧に説明してくれる葬儀社を選びましょう。また、葬儀の予算や希望する内容ははっきりと伝え、納得できるまで相談や打ち合わせを行うようにしてください。事前に葬儀に関する情報収集をすることも大事です。

不安に思った場合は契約の前に、近くの消費生活相談窓口にご相談してください。